

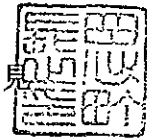


日 都 建 第 1047 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

日出町長 工 藤 義 貞



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付、国道企第37号にて依頼のありました、標記の件について別紙のとおり回答します。

道路特定財源制度が、本年 5 月の閣議決定により平成 21 年度から一般財源化されるとの基本方針として出されました。

本町は、県内において、人口の増加がみられる数少ない町としての行政運営を行っていますが、少子・高齢化の進行や、地元雇用就労機会の減少など、地域活力の減退が危惧されることは地方が抱える共通の課題でもあります。地域の特性や様々な施策を推し進め、将来に向けた定住環境と活力あるまちづくりの形成を行い、人口の益々の増加を図るためには、地域住民が安全で安心して使える道路整備が不可欠であります。また、交通の要衝にある本町は土地利用の高度化を図り、企業誘致の推進を行うためにも国道 10 号の四車線化事業や、高規格道路や空港・JR等公共交通機関と地域を結ぶ地方道路整備がまだまだ多く求められています。

このような中、一般財源化の過程で、今後地方道整備臨時交付金等の道路関連補助金の削減が行われ、一般の財政支出との厳しい競合関係になれば、道路は最低限の整備・管理すらままならない状況に陥ることが予想されます。

地方が地方として自立するためには、地方道路整備臨時交付金等に代わる道路財源の安定的な確保は、これまで以上に必要であり、それに向けた助成制度の一層の拡充を要望します。

今後の道路行政についての意見・提案

②－1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

大分県日出町

○現状

日出I. C周辺への連結町道の整備を行い企業誘致重点地域として土地利用の促進に努めているが、中心地よりI. C間の国道 10 号が未整備である。

生活の移動手段としての自動車利用は急増しているが、生活道路の劣化が著しく、安全・快適な道路整備が急務となっている。

町内生活道路につて、交通量は益々増加の傾向にありながら通学路等安全施設の整備が非常に遅れている。地域からの交通安全対策が強く望まれている。

○課題

平成 19 年度より、四車線化に向けた事業着手が行われているが、道路特定財源の一般財源化により、道路予算の減少による事業進捗の遅れが懸念される。

厳しい財政運営の中では、地方単独では、最低限度の道路維持に止まるため、計画的に行われる生活道路の維持事業については、何らかの助成制度が望まれる。

交通安全施設整備については交通安全対策特別交付金を主な財源として実施しているが、厳しい財政状況の中では整備の進捗が図れない現状である。交通安全対策にかかる高率な助成制度が望まれる。

地域を支える根幹である道路の果たす役割を十分認識し、計画的・重点的に整備を行い、本町の地理的、社会的に恵まれた自然環境を基軸として、地域文化の振興・観光交流の創造を図り、地域の創意工夫を生かした活力あるまちづくりを行う。

まず、国道10号別大拡幅・日出I. Cまでの完成は、本町のどこからでも30分圏域に世界的観光都市である別府市・また、中核都市大分市へと通じ、地域生活圏域の拡大となり地域経済の活性化となることから、動脈である国道10号の四車線化の完成に向けた事業推進を行うとともに、国道10号に連結する地域生活道路の整備拡充を行うことが必要となる。

地域生活道路については、快適で住みやすい住環境を基本に、地域の特性に合わせ現有施設の有効利用を行い住民との協働の道づくりをおこなう。

また、交通の要衝となる本町の優位性を生かした企業誘致に向け積極的な道路整備を行う。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

大分県日出町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	国道10号(日出地区)の四車線化事業 東九州自動車道の早期完成	国道10号の渋滞緩和と日出I. C周辺地域に展開する本町の企業誘致条件の優位性の確保がなされ、本町活性化の拠点となる。 北九州経済圏への時間短縮により、本町への経済波及効果が大きく期待できる。	